

「BA.5」がすでに収束!?日本と似ている… “ポルトガル” から学ぶコロナ対策

2022/7/18 TBS ニュース



<https://news.yahoo.co.jp/articles/5add892a36758fbc8e982e2f1cbea8f1034e90e2>

現在、日本で急速に置き換わりが進んでいる新型コロナウイルス・オミクロン株の「BA.5」。厚生労働省の専門家会合では、「来月1週目には「BA.5」にほぼ置き換わる」と分析されています。日本では、未だピークの見えない「BA.5」ですが、ヨーロッパのポルトガルでは、「BA.5」がほぼ収束している状態。果たしてどのような対策で乗り切ったのか?調べてみました。

【写真を見る】「BA.5」がすでに収束!?日本と似ている… “ポルトガル” から学ぶコロナ対策

■ポルトガル 新型コロナウイルス「BA.5」収束へ 今後の日本は?

日比麻音子キャスター:

日本においても、8月の1週目には新型コロナウイルスのBA.5にほぼ置き換わるのではないかとされています。このBA.5、既にピークを迎えたところがあります。それがポルトガルです。まずはポルトガルの新規感染者の推移についてみていきたいと思います。

ポルトガルにおいて2022年4月の中旬にBA.5が確認されました。5月の中旬になるとBA.5が新規感染者数の半数を超えます。6月の頭の感染者は2万9000人ほどということで、日本の人口比に換算すると1日あたり約35万人の感染が確認されました。

6月頃にはほとんどBA.5に置き換わっていたとみられているんですが、その後減っていきます。7月の中旬になると、7000人台まで減ったということがわかっています。

この日本とポルトガルの共通点は一体どういうところにあるのか。まずは3回目のワクチン接種率について。ポルトガルにおいても、日本においても約66%となっています。

ただ一つ違うのが、このワクチン接種3回目を始めた時期です。ポルトガルの方がワクチン接種の開始が早いことがわかります。さらには高齢者のワクチン接種の割合について、日本は29%、ポルトガルは23%とともに20%台となっています。

続いてポルトガル政府の対応について見ていきます。ポルトガルにおいてもマスクの着用

やワクチンの接種が推奨されています。そしてポルトガルでは7月から入国の際にワクチンの接種証明または陰性証明の提示が不要となっています。

陽性者の隔離期間について、無症状または軽症の場合はこれまで7日間だったものが、7月から5日間に短縮されています。新規感染者数は減少傾向である一方、無症状者、軽症者に対する対応が短くなっているなど、症状がない方の数がどこまで反映されているのかわからない状況です。

死亡者数について見ていきます。BA.2が流行した2月の頭では52人、日本の人口に換算しますと600人を超えるぐらいの人数が居たわけです。その後、死亡者数も下がっていくわけですが、BA.5が流行しますと、また再びこの死亡者の数が56人と増えました。約9割が70代以上ということですが、こういった状況を踏まえて、高齢者等の4回目のワクチン接種、8月の予定だったものが5月に早まったそうなんです。

ここまでのポルトガルの状況を見て、松本先生は「ワクチンの早期接種開始は評価できるけれども、検査体制は維持すべきだ」ということでした。

国際医療福祉大学 感染症学講座 松本哲哉主任教授：

ポルトガルもかなり高齢の方が多いい国なので、ある程度日本と似ている状況ではあります。BA.5が日本より先に流行した参考になる国ではあると思います。早めにワクチンを接種することによって、ある程度免疫ができていて、やっぱり重症化しにくいということはありません。

お亡くなりになる方も割合としては減らせる。第6波のとき、最初はほとんどワクチン接種しなかったのですが、3月ぐらいになるとワクチン接種者の割合が相当高くなり、本当に重症者が出なくなったので、ワクチンの効果を早めに出せたという意味ではポルトガルは良かったんだろうと思います。

井上貴博キャスター：

日本はまだ無症状者の掘り起こしをやってますよね。表に出ている無症状者の5倍から10倍、居てもおかしくない。そうすると症状のある方とか重症化リスクの高い方に医療資源を集中させる方にシフトした方がいいんじゃないかという声が出てますがそこは？

松本教授：

少なくとも、例えば検査がもうキャパシティがないことに対して「無症状の人までどんどん広げていきましょう」ということであれば、重症化リスクがある人たちを優先しなきゃいけない。

ただ無症状で感染してる人が先に、気になって検査して陽性であれば、他の人に広げることある程度抑制できる。ただ重要なのは、全体として早めに重症化する人を見つけて、その人をちゃんと手当するという。全部おしなべて皆さん検査しましょうということよりも、重症化する人を早めに見つけて、対応できる体制を整えることが大事だと思います。

■新型コロナが「インフルエンザ」と同じ分類に？

日比キャスター：

さて日本においてこの新型コロナウイルスの分類について、このような指摘が分科会でありました。「今は第7波への対応に集中することが最重要である。同時にコロナを一つの疾病として日常的な医療提供体制の中に位置づけるための検討も始める必要があるのではな

いか」ということで、尾身会長も「5類に近い方向に行くということもある」と話していました。

現在この新型コロナウイルスというのは、2類に近い位置づけです。

▼新型コロナ（新型インフルエンザ等の感染症）

- ・外出の自粛要請がある
- ・入院勧告や措置がある
- ・就業制限がある
- ・無症状者への適用がある
- ・診断時の届け出は直ちに行う
- ・入院対応の医療機関が 一般の医療機関・指定医療機関
- ・医療費の公費負担がある

▼5類（季節性インフルエンザなど）

- ・外出の自粛要請がない
- ・入院勧告や措置がない
- ・就業制限がない
- ・診断時の届け出は7日以内に行う。
- ・入院対応の医療機関が 一般の医療機関
- ・医療費の公費負担がない

日比キャスター：

新型コロナウイルスが5類になると、治療を受ける際も自費で負担する可能性が出てきます。





ホラン千秋キャスター：

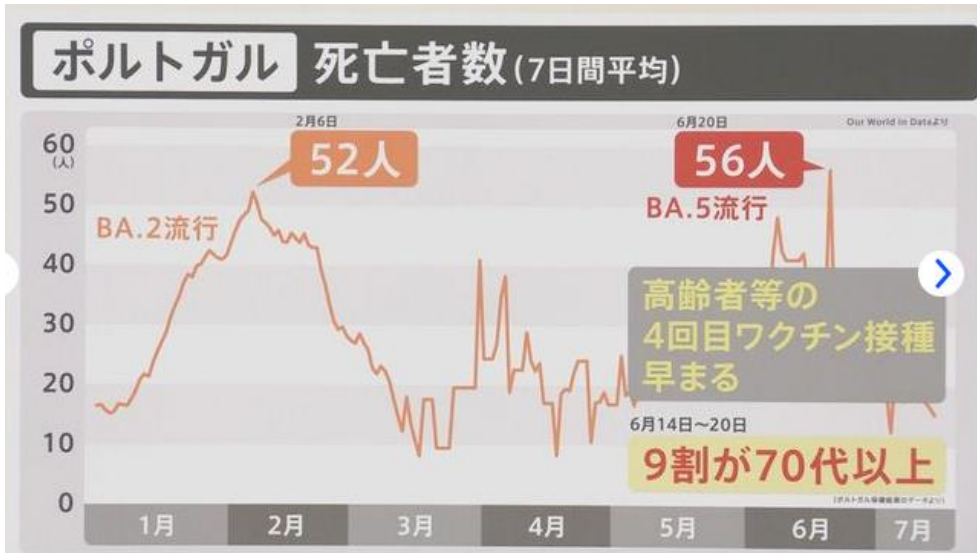
この分類を変えることに関しては度々議論に上がっていると思うんですけども、松本さんご自身は分類を変えることについてはどう思われますか？

松本教授：

2類は「オミクロン株になって、そこまで重症化しない」ということであれば厳しいルールをずっと当てはめていることになります。ただそうは言っても、インフルエンザと同じように扱えるぐらいまで、今のこの状況が良くなっているか、多くの人たちがすぐに医療機関を受診してお薬も検査を受けて、お薬も受けられるというところには、まだ至ってない。お金も相当かかってしまいます。その辺りをしっかりちゃんと調整した上で、5類に混乱なく持っていけるように、これから社会を、体制を整えていくことが大事だと思います。

ポルトガル政府の対応

 マスク着用推奨 公共交通機関・病院 高齢者施設など	 今月～ 入国時 ワクチン接種証明 陰性証明の提示不
 ワクチン接種推奨	 今月～ 陽性者の隔離期間 無症状または軽症 7日→5日に短縮



14日 政府コロナ分科会

今は第7波への対応に集中することが最重要である

同時に「コロナを一疾病として日常的な医療提供体制の中に位置づける」ための検討も始める必要があるのではないか

政府分科会 尾身 茂会長

(すぐにではないが) 5類に近い方向に行くということもある

感染症の分類

	外出の自粛要請	入院勧告・措置	就業制限	無症状者への適用	診断時の届け出	入院対応の医療機関	医療費の公費負担
新型インフルエンザ等感染症 新型コロナ	○	○	○	○	直ちに	指定医療機関 一般医療機関	有
5類 季節性インフルエンザなど	×	×	×	×	7日以内	一般医療機関	無